



のびのび組だより 7月号

梅雨はまだ続っていますが、汗ばむような日が多く、夏の訪れを感じますね。先日、初めて水遊びをすると、服を着たままだテラスに出ようとしたり、反対にあっという間に服を脱いだりと、早くやりたくてウズウズした様子でした。そんな子どもたちも、最初は控えめにタライの水をチョンチョンと触っていましたが、保育者がジョウロで水を落としたり、ピチャピチャと水しぶきを立てたりすると、徐々にダイナミックに楽しむ姿が見られましたよ♪引き続き夏ならではの遊びを楽しみたいと思います。

先月は、発熱、咳、鼻水等体調不良の子が多く、長引いたり、ぶり返したりする姿が見られました。現在は体調が回復した子が殆どですが、この時期は疲れが出やすくなるので引き続き体調管理に努め、都度様子をお伝えしていきたいと思います。また、こまめに水分補給や休息を取り入れながら無理なく過ごし、元気に夏を乗り越えたいと思います！

今月の予定

7日（金） 誕生会・七夕の会
13日（木） 乳児健診

日時指定無し 避難訓練
日時未定 水遊び時避難訓練



今月のねらい

- ・水遊びやボディーペインティング等、夏ならではの感触遊びを楽しむ。
- ・保育者の仲立ちのもと、友だちとの関わりの中で、一緒に遊ぶ楽しさや喜びを共有する。



今月の絵本

『ぐるぐるジュース』

作：矢野 アケミ 出版社：アリス館



まあるい形にまずはりんごをポン！
次はバナナをポン！
いちごもぶどうもポン、ポン、ポン！
丸の中が美味しそうな

フルーツでいっぱいになったら、牛乳とはちみつを入れて、さあお待ちかね！！ぐるぐるぐるぐるぐるぐる〜！！と混ぜて、フルーツジュースの出来上がり♪「ぐるぐる」というリズムカルな言葉や、「いただきます」「かんぱい」等日常で使う言葉を楽しみながら読んでいます。



お友だちと一緒に♪



進級当初は、自分の遊びに夢中だった子どもたちでしたが、少しずつ周りに意識を向けるようになり、友だちや友だちがする遊びに興味を持つようになってきました。最近では、一人がままごとの玩具を持ってくると、その姿を見た他の子が真似っこ！更に他の子も続いていきます。お茶をこぼしても真似っこ！あらら…と思いつつも、“友だちと一緒に”が楽しく感じられるようになったことに成長を感じます。一緒に遊ぶ中で、友だちの名前を呼んだり、顔を見合わせて笑ったりと、友だちに親しみをもちながら関わることを楽しんでいますよ♪

その一方で、先日の懇談会でもお伝えしましたが、友だちが使う玩具が魅力的に見え、無理矢理取ってトラブルになることがとても増えました。「かして」という言葉や手振りで伝える子もいますが、まだまだ行動の方が先になる年齢です。怪我に繋がらないよう気を付けていきながら、保育者と共に言葉で思いを伝える経験を増やしていきたいと思っています。

保育参観・Zoom懇談会・・・ありがとうございました！

先日はお忙しい中、保育参観・懇談会にご参加頂きありがとうございました。お子さんの園生活の様子や、のびのび組での保育が少しでも伝わっていれば幸いです。懇談会での動画を観る保護者の皆様の表情がとても柔らかく、笑顔が多く見られて私たちもとても嬉しくなりました。

時間の都合により割愛しました「イヤイヤ期」についての話を、次のページに記載させていただきます。

『イヤイヤ期について』

2歳児前後に自己主張が強くなり、何でも「イヤイヤ」と言う時期を俗に「イヤイヤ期」と呼んでいます。イヤイヤ期が起きる原因は、2歳児前後の子どもの脳の“前頭前野”という部分が未発達なことにあります。この前頭前野という部分は、感情のコントロールをしたり、物事を判断したり、衝動的な欲求を抑える脳機能の中枢で、簡単に言うと「理性」の部分に当たります。これが未発達の時期は、本能的な欲求を抑えることができません。そして、それに加え自我が芽生えてくることで、より欲求が強くなります。この時期の子どもが周りの状況を見たり、相手の気持ちを考えたりして欲求を抑えることが出来ないということが当然なのも頷けますよね。大変な時期ではありますが、決してそれまでの育児が原因ということではなく、寧ろ順調に発達しているからこそ起きることなので、安心して下さいね。また、このイヤイヤ期の始まる時期や期間、イヤイヤの出し方には個人差がありますが、一過性のものなので落ち着く時は来る、ゴールはあるということも是非知っていて下さい。現在クラスで見ている限り、イヤイヤ期に入ったお子さんはまだ少ないですが、ご家庭でこれはイヤイヤ期なのかな？と感じている方もいらっしゃるようです。こまかい対応法については個々の状況や姿によって異なるので、都度ご家庭ごとにお伝えできればと思っていますが、大切にしたいポイントが3つあるのであげさせていただきます。

①子どもの欲求や要求に対して必ずしも全てを“受け入れる”必要はなく、“受け止める”ことが大切。

例として、「着替えたくない！」と癇癪を起こした際の“受け入れる”と“受け止める”の関わりを比べてみます。

*受け入れる・・・「いいよ。」と着替えないようにする。

*受け止める・・・「そっかぁ。今は着替えたくないんだね。この服が好きだもんね。」と伝える。

どうでしょうか？この場合は受け入れると、“主張すれば自分の思いが通る”ということを学習していくかもしれません。しかし、受け入れることがいけないということでは決してなく、受け入れられる内容、状況によっては受け入れることも必要ですよ。その際には、受け入れるだけでなく、まず受け止めることが大切かと思います。上記の例の場合であれば、受け止める言葉の後に「じゃあもう少しこの服を着ていようか。」等の言葉を加えてみるといいかもしれません。次に、受け止める方の対応についてですが、これは受け入れるかは別として、子どもの思いをそのまま「そうだったんだね。」と受け止めることを指します。どのように言えばいいのかわからない場合は、子どもの言葉をそのままオウム返ししてみてください。まだ言葉が出ていない時期であれば、何によってイヤイヤをしたのかを思い返し、服を脱がそうとした時であれば「ぬぎぬぎされなくなかったんだね。」「まだ着ていたいんだね。」というような受け止め方ができます。子どもにとって受け止めるというのは、自分の気持ちに気付いてくれてるという安心感となり、自分が大切にされている存在なんだなという自覚に繋がります。そして、それが自己肯定感を高めていきます。

②子ども自身がやり方を選択する。

①で受け止めることの重要性をお伝えしましたが、受け止めたからといって必ずしも状況が変わったり、スムーズに次に進めるかということ、そうではないところがまた難しく大変なところですよ。また、この時期の子どもは人に言われてやることや、人に無理矢理させられることをとても嫌がります。そこで有効的な関わりが、②になります。①の例で受け止めた後に「ズボンから着る？」「それともTシャツ？」「お膝に座ってやる？」等いくつか選択肢を与え、その中から子ども自身にやり方を決めてもらいます。ここでのポイントは、どれを選択しても“着替える”という結果になることです。結果への過程を子どもが決めると捉えると分かりやすいかと思います。この“自分で決める”という経験をすることで、自分の意見が尊重されることを感じ、次の行動に移しやすくなりますよ。

③癇癪を起こすことや泣くこと自体をなくすということを目標にするのではなく、癇癪を起こしたり泣いたりしても気持ちを切り替えられるようになることを目標にする。

最終的には自分で切り替えられるようになることがベストかもしれませんが、最初からそれをするのはとても難しいです。その為、①と②のポイントであったり、様々なやり方(内容によっては敢えて無反応にする、全く別の話をする等)で切り替えられるように働き掛けることが大切だと思っています。

とはいえ・・・

保護者の皆さまは、仕事での顔、家庭での顔等様々な顔を持ち、日々忙しく過ごしてらっしゃるかと思いますが、イヤイヤ期だけに限りませんが、子どもの対応は心の余裕が必要になる為、多忙の中いつも丁寧に関わることは難しいですよ。困った時、悩んだ時には、いつでもご相談ください。一緒に悩みながら、今しか見られない子どもの成長過程を楽しみましょう！